

新ごみ処理施設

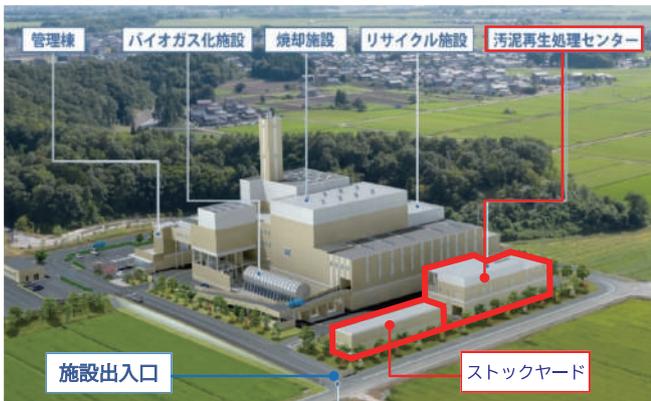
# エコパーク湖北



## 施設整備状況

### 01 汚泥再生処理センター・ストックヤード棟の工事が始まりました

令和6年2月より、新一般廃棄物処理施設（汚泥再生処理センター・ストックヤード棟）の建設工事が始まりました。汚泥再生処理センターは、令和7年7月に試運転を開始し、同年10月より施設の供用開始を予定しています。工事にあたり、近隣の皆様には大変ご迷惑をおかけしますが、ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。



新施設完成イメージ図（長浜市木尾町）



現場状況写真（R6.2月末時点）

#### 汚泥再生処理センター

汚泥再生処理センターは管内で発生するし尿、浄化槽汚泥等を受け入れて所定の水質まで浄化するとともに資源（助燃剤）を生成する施設です。浄化された処理水は下水道へ投入します。

※現在の第1プラントが移転

※参考



第1プラント（湖北町海老江）  
令和7年9月末に閉鎖します

#### ストックヤード棟

ストックヤード棟は、管内で発生するガラスびん、古布、紙パック、ペットボトル、缶類、古紙等を受け入れて、資源回収業者に引渡す為に一時貯留する建物です。

※現在のクリスタルプラザの一部が移転

※参考



クリスタルプラザ  
ストックヤード棟

気になる

### 汚泥再生処理センターの臭気対策は？



#### 1 バキューム車

バキューム車の搬入作業は受入室内で行います。受入室は車両を検知して自動で開閉するシャッターを出入口に設置するとともに、室内で発生する臭気は脱臭設備で吸引、処理することで施設外に臭気が拡散しない構造とします。



#### 2 水槽・処理設備

し尿等を処理する水槽や処理設備はすべて密閉されており、またそれぞれの設備から臭気を吸引することで、臭気が外部へ漏洩しない構造となっています。各設備から吸引し集められた臭気は脱臭設備で処理します。



#### 3 脱臭設備

施設内で発生した臭気は、水槽や処理設備から発生する高・中濃度臭気と、主に受入室内から発生する低濃度臭気に分けて集められ、濃度ごとの臭気特性にあわせた脱臭処理を行います。

**Q1** 施設からのにおいは本当に大丈夫ですか？

**A1** 他のし尿処理施設でも同様の対策を行っておりますが、臭気に関する苦情は発生していません。

**Q2** 試運転は、バキューム車が入ってくるのですか？

**A2** 試運転時は実際にし尿を受け入れて施設の性能を確認するため、工事の進捗にもよりますが、令和7年7月ごろよりバキューム車が入り出す予定です。

**Q3** 汚泥再生処理センターで生成される助燃剤とは何ですか？

**A3** し尿等を処理する上で発生する汚泥を含水率70%まで脱水したのになります。焼却施設で可燃ごみと混焼することで、補助燃料を必要としないため、CO<sub>2</sub>の削減が可能になります。

**Q4** し尿を処理した水は、田川から琵琶湖に流れてくるのでしょうか？

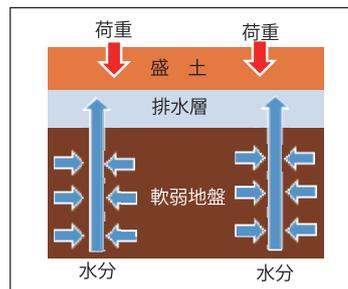
**A4** し尿を処理した後の排水は、全て下水道へ流しますので、下流の河川や琵琶湖に流れることはありません。

## 02 造成工事における軟弱地盤対策（地盤改良工事）の実施



令和5年6月着工の造成工事では、工区ごとに盛土を行っております。盛土工事は、軟弱地盤対策として、造成計画高以上の余盛りを行い、地盤改良工事（プラスチックボードドレーン工法）を併用することで、地盤の沈下を進め、不同沈下を低減させています。これは、漬物をつくる際、オモシをのせ、荷重をかけることで水分を抜くことと同様の原理で、余盛り分がオモシで地盤改良工がストローの役目となり、早期に沈下促進を図り造成完了後の残留沈下や不同沈下を低減します。沈下がおさまれば余盛り分は撤去します。

▶排水イメージ



### プラスチックボードドレーン工法

軟弱地盤中に鉛直なドレーン材を打設し、その排水効果と載荷重によって地盤を圧密、強固にする工法です。



湖北広域行政事務センター施設整備課

TEL : 0749(62)7146 MAIL : seibi@kohoku-kouiki.jp

センターホームページ「Topics」にて事業の情報を発信しています。工事進捗状況も毎月更新しています。

